



発行
豊中市人権教育推進委員協議会
機関紙編集部会
(豊中市教育委員会事務局社会教育課内)
電話 06-6858-2580



平成 30 年度 (2018 年度) 人権作品 刀根山小学校 6 年 大呑 真衣

巻頭言

部落問題を学ぶ

副会長 植松 英子

2020 年度、豊中市人権協は 50 周年を迎えます。これを機に今一度「部落問題」について勉強しておきたいと思い、大学の授業を受けに行きました。

結婚差別についてのある調査では「もし、自分の結婚しようとする相手が部落の人だとわかった時、結婚する」と答えた人は 7~9 割でほとんどの人が差別をしなくなっています。



しかし逆を言えば「結婚しない」も 1~3 割いるということになります。部落の人たちの側から見ると 10 人中 1~3 人は結婚差別を受けているという話なのです。多数派 (マジョリティ) の人にとっては「そんな話あるの?」という話も、少数派 (マイノリティ) にとっては「よくある話」という、大

きな差があります。差別は気づこうとしないと気づかないということです。

水平社宣言の中に「吾々が穢多である事を誇り得る時が来たのだ」という一文があります。差別は差別される側が悪いのではなく、差別する側が悪いのです。差別の根本的解決は社会の在り方を変えなければならないと宣言しています。差別のない仕組みを作ることなのです。

そして、差別を差別と見抜くためには学習が必要です。かつては、「穢多」も「女性」も差別される身分でした。法律や制度が正しいとは限らないのです。差別に気づき声をあげ社会を変えていく必要があります。あなたが差別をしなくとも、差別は「ある」ものと認識しなければ、その解決のために行動しない限りそのあなた自身も差別をする側に立ってしまいます。

部落問題を学習することは人間の歴史を学ぶことです。その歴史には差別のメカニズムが凝縮されていて歴史の深さに驚かされます。何十年ぶりのキャンパスライフですが、いくつになっても学ぶことの大切さを感じています。

令和元年度(2019年度)

「人権教育をすすめる市民の集い」を終えて

11月8日(金)「市民の集い」を開催しました。

意見発表…地域で、子どもの育ちをサポートする

六中校区 國見 静香 さん

記念講演…テーマ 『ネット社会と子どもの人権』

～子どもたちに忍び寄る SNS の光と影～

講演者 原 清治 さん(佛教大学副学長、佛教大学教育学部教授)



★来年度の予定★
総会 5月15日(金)
市民の集い 11月5日(木)
カレンダー「人権文化のまち・とよなか」
に記載の日程と異なります。
ご注意ください。

■ 記念講演に寄せて・・・

講演は導入から面白おかしく、一転、衝撃内容の連続。近ごろ都に流行るもの…ネットゲーム「荒野行動」。自分以外は全て敵。殴る、切れる、言葉遣いが変わる。子どもたちの日常はゲーム感覚。

大学の学食でみられる最近の「(ひとり)ぼっち席」。重い人間関係を嫌い、切り分ける空間。ネットかリアルか…親友はどっち？

子どもたちの人間関係は、少人数化、同質化、スクールカースト化。これがいじめの土壌へ。

子どもたちに地域ぐるみで、挨拶をする、人の話を最後まで聞く、など直接型コミュニケーション機会を増やし、ネット社会依存を減じる。

等々の内容でありました。

学校や社会で起こる様ざまな問題の要因や、そのメカニズムについてユーモアを交えながらのご講演は、アツという間の90分でした。

悪い大人たちが SNS を悪用し、子どもたちを食い物にする事件は後を絶ちません。私たち、大人や保護者が「詳しくないから」と逃げずに、SNS の利用制限などを積極的に学び、使用方法について毅然かつ論理的に話し合えるよう「SNS 教育」を社会全体、ワンチームで進めていきましょう。

発覚しているだけで、SNS による小・中高生の被害者は年間約 1,800 人！(2018 年度)

副会長 中川 博史

参加者の声。。。

○意見発表を聞いて。。。

- ・六中校区さんの発表がとても良かった。他校区の取り組みなどを知ることがとても参考になります。
- ・六中校区、大改革ですね。良い方向に向かったと報告をどこかで聞きたいです。

○記念講演を聞いて。。。

- ・相手を尊重しながら自己主張をする…しっかり心に留めておこうと思います。
- ・これからの子供との関わりに大切なことを教えていただきました。
- ・多様性を認め合う、共有する大切さを改めて思いました。

(市民の集いアンケートより)

市民の集い 記念公演を聞いて

二中校区常任委員 林 久美子

佛教大学の原清治さんをお迎えしての記念講演。スマホの普及でネット利用が手軽になり、子どもたちの間で顕著になってきたさまざまな変化を、子どもの人権というテーマに沿いながらお話をいただきました。

会場から笑いがおこる楽しい自己紹介のあと、ネットが子どもたちに与える影響について例を挙げられました。バトルロワイヤル型ネット対戦ゲームが流行、ゲーム感覚が擦りこまれ、心無い言葉が安易に多用される。大学の学食では対面を避けて食事する学生のため、テーブルをついたてで仕切った一人用の席“ぼっち席”が多くある。LINEに登録されている子が友だち。つまり、リアルに顔を合わせる人より、ネットでつながる人のほうが親密という感覚、などなど。ネットの依存度が高いと、人とつながる力が低下する。うまく

自己主張ができない、自身の言動（SNSの発信も含む）に相手がどう思うか？というところまで思いがいたらなくなってしまう。

子どもに良好な人間関係を築いてほしいのであれば、まずは周りの大人が直接型のコミュニケーションの手本となること。あいさつをする、人の目を見て話す、人の話を最後まで聞くなどがその一例。ひいては、ネットの依存度を下げ、相手も自分も尊重しながら感じの良い自己主張ができることにつながるのだ。



意見発表要旨

地域で子どもたちの育ちをサポートする

発表 / 要約：六中校区常任委員 國見 静香

六中は今年度いっぱい無くなり、十中と合併して庄内さくら学園中学校として新たにスタートします。令和2年から、令和5年までの期間限定の学校ですが、少子化した現状の学校より、子どもたちのために変化して前に進んで行こうとの考えがあったからだと思います。

かつて、六中校区は落ち着かない時代がありましたが、生徒の中から「自分たちの手で、六中をもっと美しくしよう」との声が上がり、「クリーン作戦」が始まりました。今では、「ふれあいフェスティバル」や「地域子ども教室」、「朝ごはんの会」など、PTA や地域、ボランティアの方と協働して子どもたちの育ちをサポートする活動が根付いてきています。これは、六中校区が人と人のつながりを大事にしてきた結果だと思

います。

また、六中校区独自の取り組みとして、人権の取り組みや研修会の感想などを紹介する「やさしさ宅配便」を発行し、地域に人権の気づきや学びの輪を広げています。

六中校区は今、変わろうとしています。これまでの受け継がれた文化や伝統、自治会を中心とする行事などを受け継ぎ、温かくつながるまちづくりを目ざし、前へ進んで行きたいと思います。最後になりましたが、今回意見発表が出来たのは、皆さまのご理解があったからと感謝しております。



豊中市人権協は今日まで「市民の人権感覚の育成と、人権が大切にされた市民社会の実現」をめざし、取り組んでまいりましたが、自主的市民団体として、今後、自らの財源確保も大事なことと考え、昨年度にひきつづき「人権教育をすすめる市民の集い」においてご参加の皆様へ支援金をお願いいたしましたところ 32,793 円の支援金をお寄せいただきました。皆様の貴重な支援金は今後の人権協の活動に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

地区活動

大阪地方裁判所



十四中校区

生野コリアタウン



アンネフランク資料館



七中校区



一中校区・二中校区・十六中校区

あっちこっち 見たり

阿倍野防災センターを訪ねて

四中校区常任委員 横田 裕子

12月2日に大阪市立阿倍野防災センターで現地研修を行いました。

同センターに行く前に震災と人権について自分なりに調べてみたりしました。東日本大震災では福島県の原子力発電所事故によって農業や水産業、酪農業は大きな風評被害を受けてしまったり、避難先での被災者に対する心無い対応などもあったり、これらは決して見過ごす事のできない人権問題だと思いました。



阿倍野防災センターでは減災や消火体験、震度7体験などたくさんのお話を学ぶことができました。

大阪市は南海トラフ地震がおこると1時間50分後には第一波が到着し最大で5mの津波がくるそうです。

遠くない未来に必ず大地震は来ます。

大地震がおこった時のために今回学んだ震災の大変さや怖さ、防災の知識を活かして地域と協力していき、被災者のみなさんの人権を守れるように考えていきたいと思いました。



四中校区・九中校区
十二中校区・十五中校区・十八中校区

京都ライトハウス



十一中校区

交野女子学院・・・三中校区

浪速少年院・・・八中校区

大阪水上隣保館 児童養護施設 遥学園を訪ねて

五中校区 常任委員 村瀬 令子

12月17日に、遥学園に現地研修に行きました。こちらは、日本最大級の児童養護施設で、134名が幼児から小学校低学年までと、高学年から高校生までのフロアに男女別に分かれて暮らしており、園では学校以外にも園独自の部活やグループ活動を行い、子どもたち同士や職員との関係が作られています。

園では、子ども家庭センター（児童相談所）による一人ひとりへの援助計画に基づき養育されており、塾に通ったり、園独自の奨学金制度で大学へ行く子どももいます。また、自立後も毎年お盆に里帰り企画があったり、就職の悩み相談など精神的な支えとなっています。

職員は、子どもの性格に合わせて柔軟な対応をとり、真剣に子どもたちと向き合っていると感じました。また、子どもたちは洋服を買いに行ったり、銭湯に行く計画を立てたり、洗濯や調理実習をするなど、家庭的な経験をして自立できるように考えられていました。

入園から家庭に戻るまで平均して5年だそうです。家庭に戻れないまま成人になる子にとっては、まさに親がわり。職員の頑張りに尊敬の思いを感じるとともに、私たち親も、自分の子どもをしっかり育てないと、改めて思いました。

(注) 昨年、五中校区内に豊中市初の児童養護施設「翼」が開設されました。



遥学園



五中校区・十七中校区

聞いたり

学んだり



四天王寺

六中校区・十三中校区

戦争について

十中校区常任委員 木寺 好子

秋の紅葉真っ只中の11月19日、現地研修にて立命館大学国際平和ミュージアムを訪ねました。14名の参加者に4名のガイドの方が付いて、少人数に分かれて詳しく案内していただきました。

私は長崎で生まれ育ち、戦争イメージは原爆投下でしたし、息子の修学旅行も広島原爆ドームでした。原爆で戦争は終わったという思いがありました。しかし、生物兵器や毒ガス製造など知れば知るほど被害者も加害者も同じ人間で、個々の意図ではない処へ流されるしかなく、戦争は人としての思考も人権も奪うものでしかない。この様な戦争を始めると決めたその時に罪は発生していると思います。多くの若い方々が戦いに強制され、立命館大学からも沢山の学生が軍隊にとられ、今も千名近く安否不明のままである哀しい現実。大学生の息子を持つ身としては、胸が締め付けられる思いでした。

国際平和ミュージアム



十中校区

世界人権デー

駅頭啓発活動に参加して



右から
岩元教育長
長内豊中市長
島田人権協会長

世界人権宣言が 1948 年 12 月 10 日に国際連合総会で採択された日を記念して、世界人権デーが制定されました。日本では毎年人権デーを最終日とする 12 月 4 日から 10 日までの一週間を人権週間とし、啓発活動が行われています。豊中市は「人権擁護都市宣言」を行っており、私たち人権協は各団体と共に豊中市内全駅で駅頭啓発活動を行なっています。

私たちが参加した千里中央駅は広く、活動の参加人数は 37 名でした。広場や駅改札から近い人通りが多い場所を 5 グループに分かれて担当しました。人権デーや豊中市人権擁護都市宣言のことを記載したポケットティッシュとミニカレンダーを配布しました。幸い、厚着では少し汗ばむほど暖かい日だったため、道ゆく人もポケットに手を入れていることもなくティッシュを受け取る人がたくさんいらっしゃいました。ミニカレンダーが好評で「カレンダー入ってる、嬉しい！」と大変喜ばれ、こちらも嬉しくなりました。途中で道案内を頼まれたり配る人同士も配り方をレクチャーしたり和やかに会話しながら、楽しく活動ができました。

この活動が、人権とは何かを振り返るきっかけになればと願います。

八中校区常任委員 富岡 恵子

役員・常任委員現地研修会

～飛鳥路を訪ねて～

《み吉野の 耳我の嶺に 時なくぞ 雪は降りける …》と万葉集に詠われている天武天皇の句。

天武天皇の時代に、天皇を頂点とする中央主権国家が確立されていき、その律令官人制の階層で、社会的地位の低い人々を意図的に作りだしたことを初めて知りました。

いつの世にも差別があり、私たちはそれに立ち向かっていかなければならないと感じます。



その天武天皇と後の持統天皇が葬られている天武天皇・持統天皇陵。

日本最初の本格的なお寺で、日本最古の仏像飛鳥大仏がある飛鳥寺。

住職に熱っぽく解説していただいた日本最古のお寺といわれる向原寺。

大化の改新の中心人物である中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足（後の藤原鎌足）が蘇我入鹿の討伐の密儀を図ったとされる談山神社。

古代の大陸との交流や様々な風景、仏像に接して、万葉の地に立ち、ロマンを感じながら飛鳥路を歩きました。

事務局長の西田先生の手作りの多くのファイルに感謝し、万葉集からとられた年号「令和」の年にふさわしい研修となりました。

副会長 古川 博夫



編集後記

2019年は、想定外の自然災害が列島を襲い、人々を不安のどん底へと…同時に W 杯ラグビーでは、日本チームの活躍もあり、予想以上の感動と勇気を与えてくれた。その時の日本チームのスローガン「ONE TEAM」が今年の流行語大賞に選ばれた。

2020年、間もなく東京オリンピック・パラリンピックの「聖火」が列島をかけるだろう。そして本番、世界中から一流のアスリートを迎えます。

私たちの活動も「ONE TEAM」精神にのっとり、前進していくことが望まれることでしょう。

最後になりましたが、「じんけん」158号発行にあたり、ご執筆・ご投稿いただきました皆さまに、心からお礼申し上げます。

書記 清水 千緋